

「都民のくらしむき」

平成14年 東京都生計分析調査（確報）の要約

東京都生計分析調査は、調査世帯の協力によって家計収支の実態調査を行い、その生計費の構造の変化を分析し、都民のくらしむきを明らかにしている。

家計収支の特徴

〔全世帯〕

全国と比べ住居支出の割合が非常に高い。また教育の支出割合も高い。
食料の中分類項目で全国と比べてみると、外食支出の割合が高い。

〔勤労者世帯〕

30歳未満の世帯：家賃負担が多い。
30歳代の世帯：自動車購入・維持の支出が多い。
40歳代の世帯：多額の住宅ローンの支払いと教育支出の負担が重い。
50歳代の世帯：消費支出に比較的余裕がうまれている。
60歳以上の世帯：住宅の修繕・維持(リフォーム)支出が多い。

〔無職高齢者世帯〕

実収入より消費支出が多く、この不足額を預金の取り崩しなどにより補っている。

家計収支の動向

〔全世帯〕

消費支出：前年に比べ名目で0.7%減少したが、実質では0.3%の増加で、2年ぶりに実質増加した。

発泡酒は実質24.3%、携帯電話通信料は実質33.0%増加した。

〔勤労者世帯〕

実収入：前年に比べ名目で0.9%、実質で1.9%となり、ともに増加した。

消費支出：前年に比べ名目で0.9%、実質では0.1%増加した。

デフレ状況下における土地家屋借金の返済がめだつ。

〔無職世帯〕

実収入：前年に比べ名目で0.9%、実質で1.9%となり、ともに増加した。

消費支出：前年に比べ名目で1.0%減少、実質では0.0%で変わらなかった。